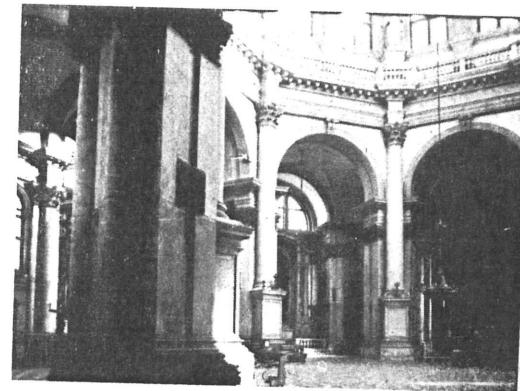
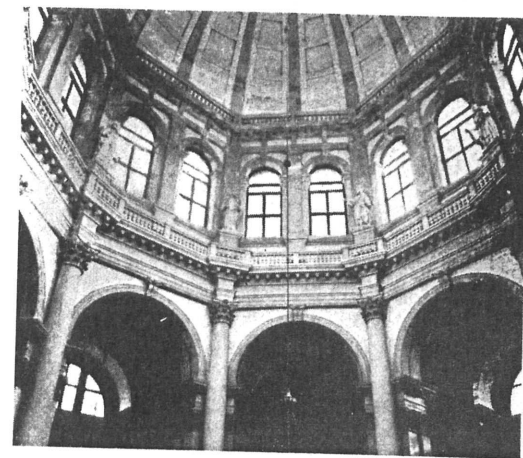
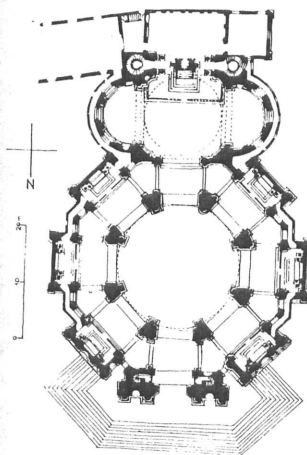
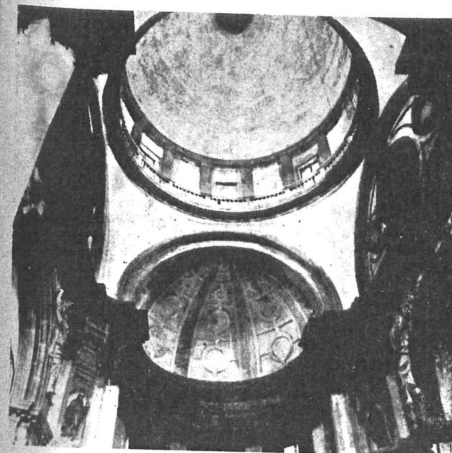


バルダサーレ・ロンゲーナとバロック様式 Baldassare Longhena

建築家としてのバルダサーレ・ロンゲーナ（ヴェネツィア、1598 - 1682）は、ヴェネツィアの17世紀のバロック建築全体のなかで抜きん出た存在である。サンソヴィーノ、スカモツィーニそして特にバラディオの作品からの教訓を、調和と統一のとれた、特にヴェネツィアの環境に合致する手法で発展させることに成功している。彼の建築の古典的で落ち着いた骨組みは、カペーザロやカ・レッツォーニコのように、豊かで生き生きとした彫塑的で明暗の変化をもつ外観の装飾を否定していない。ロンゲーナが使用したバラディオ的要素は、外観だけでなくとまらずサルーテ教会内部やサン・ジョルジョ教会の大階段のように、特に複合的で舞台装飾的な内部の空間構成に適用されている。長期で多岐にわたるロンゲーナの活動は、スクオーラ・カルミニヤギリシャ人のスクオーラ、サルーテのソマスキ修道院、サンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ広場のドメニコ会修道院、ゲッターのユダヤ人コミュニティのためおよびスペイン人とレヴァント諸国人のシナゴークなど、ヴェネツィアにおける種々の宗教団体や外国人用の施設に見られる。ロンゲーナの仕事はアントニオ・ガスパリ（カペーザロ）とジョルジョ・マッサーリ（カ・レッツォーニコ）、ジュゼッペ・サルディとドメニコ・ロッシに引き継がれ、アレックスandro・トレミニオンとアンドレア・コミネッリは17世紀から18世紀にかけてヴェネツィアで発展した、バロック様式の華やかな潮流の追従者となった。



「栄光の聖母」サルーテ教会の大祭壇。G.レ・クールト、1670年

75

サルーテ教会 ロンゲーナ、1631 - 81年
Chiesa della Salute

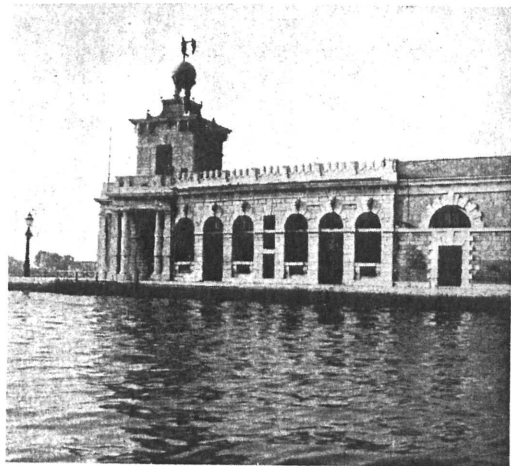
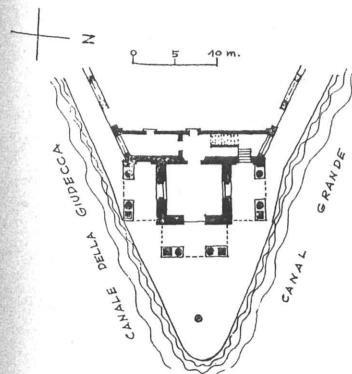
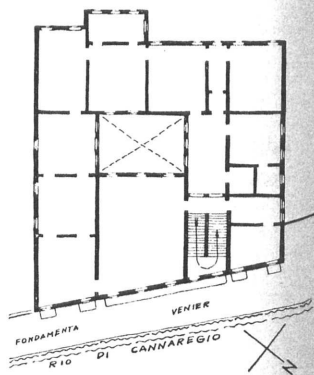
サルーテの至福の聖母マリアに捧げられたこの教会は、1630年10月22日にペストの危険が無くなったことに感謝して元老院の命令で建てられた。11の設計案の中から、当時32歳のバルダサーレ・ロンゲーナの案が選ばれた。この建物はトリニタ（三位一体）のオスピーツィオの土地に1631年に建て始められ、1681年に完成した。同じ年に教会前の広場と岸辺も完成した。教会は1687年11月9日に献堂された（ロンゲーナは1682年に死去した）。毎年11月21日に総督が、船を並べてつくられた仮設の橋をこえて大運河を渡り厳粛な訪問をしていた。

この祝祭が民衆の間に広がり、今なお人気がある。教会は中央集中式のプランで、ポリフィロの木版画（1499）に着想を得たと信じられている。大ドームで覆われた八角形の中央の空間のまわりに神域が広がり、その上に6つの礼拝堂が設けられて、大祭壇はドームのかかったエクセドラ翼廊と正方形の聖歌隊席の間の高い位置に舞台装飾的に置かれている。外観は壮大で劇的である。基礎と16段の階段の上に中央入口とそれぞれに三角の破風と古代浴場風窓がついた放射状礼拝堂が立ち上がる。上には非常に彫刻的效果のある16の渦巻状のバットレスに取り巻かれた、八角形のドラムが載っている。その上に、ランタンと両横の鐘楼を持つ2つのドームが載って、この建築装置をまとめ上げ、都市景観における独特

の要素として存在を主張している。多くの彫像と装飾がゴシックのカテドラルの小尖塔のように、建築的概念と強く結びついて生まれている。サルーテ教会は建築的な独創性に富んでいるが、ペルジーノやラファエロの絵画、ヤコポ・ベッリーニのデッサン、カルパッチョ、ジェンティーレ・ベッリーニの作品などの中に描かれ、深く根をおろした一つの建築文化の所産でもある（E.バッシ）。また、オーダーが交差する正面、古代浴場風窓のついた側面の礼拝堂、小鐘楼、アプスのデザインなど、多くのバラディオ的要素も見出せる（R.ウイットコウワー）。全ての価値ある作品同様、これがヴェネツィアにおけるマニエリズム時代の終焉と、新たに台頭したバロックの幕開けを告げる作品となった。



a

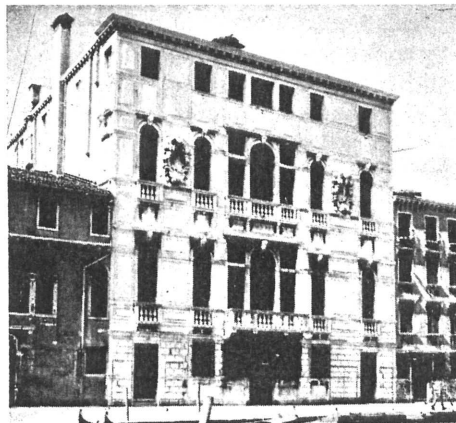


85

パラッツォ・プリウリ・マンフリン, カンナレージョ小運河, A. ティラーリ, 1735年
 Palazzo Priuli-Manfrin, Rio di Cannaregio
 グーリ工橋のもとに建つパラッツォ・プリウリ・マンフリンは, 18世紀初頭に再建され, 建築家アンドレア・ティラーリの成熟期の作品である(1737年頃)。かなり並外れた特徴を持ち, 部屋の間取りは慣習の3列形式に従わず, 機能的必要性から作られたロジgiaなど中庭のまわりに自由に展開している。(例えば階段は主ファサードに接して置かれている)。真四角で飾りのないファサードは, 実に「近代建築の予言」の様に見える(E. バッシ)。簡素な帯が入った四角いファサードは, ヴェネツィアでは新しいものではなかった。パラーディオのレデントーレ教会に遡るまでもなく, ロンゲーナの作品のいくつかのファサードか, 2~30年程前にジュゼッペ・サルディによって建てられたパラッツォ・サヴォルニヤンの最上階を思い起こすだけで十分である。しかしここでは, ファサード全体が簡素で凹凸のない唯一の例になっている。もしバルコニーの手すりとコーニスがあれば, この建物の時代を限定するのは難しいだろう。この場合, 手すりとコーニスは実質以上の価値を持っている。事実これは, まだよく研究されていない新古典主義への予兆となるヨーロッパで最も進歩的な建築をかいま見せている。



b



c

86

税関の岬, G. ペノーニ, 1677 Punta della Dogana
 「海の税関」は, 水力学のエキスパートとして知られ, ロンゲーナ, コミネリ, サルディなども参加したコンペの勝者である, ジュゼッペ・ペノーニによって1677年に再建された。サン・マルコ広場沖の岬に塔を設けた税関の建物は, 昔からこの場所にあり(ヤコボ・デ・バルバリの地図を参照), 都市の防衛施設の一部であった。有事にはこの岬と対岸を結んで大運河を封鎖する鎖が置かれた。ここには今でも税関が置かれており, 何世紀にも渡って元々の機能を果たしている多分唯一の世俗建築である。都市計画的, 造型的にサルテの島の先端を締め括っている小さな建物で, 軍事建築の力強さを保っている。しかし塔の内部は偽装され, 両側に開く小さなポルティコによって軽快になっている。両横の胸壁狭間, 曲線装飾, 頂上の彫像によって支えられている球体は, 建物の上方向けての房飾りになっている。胸壁狭間のような防衛要素や球体のような船乗りの記憶としての要素は, 都市景観の素晴らしい装飾となっている。

